

(新潟大 鋤柄佐千子)

【目的】 衿を美しく仕上げるためには、製作者に熟練が必要とされる。しかし、既製品などの大量生産では、できるだけ熟練度を必要としないで、かつ均一につくるために、布地の性質を考慮した手法がいろいろ工夫されている。本研究は、表地、芯地の力学的性質と衿のシルエットとの関係を整理し、今後学生が、衿作成を通して、パターンと材料の関係を理論的に理解できるようにするための基礎資料を得る。

【方法】 首の形状は平均的な体型の人とし、一般的なシャツカラーのパターン（後ろ中心で3 cm上げ、衿こし2.5cm、衿幅3.5cm）を基本形として用いた。試料は表布に、婦人ドレス地より新合織布、5種類、比較として綿のブロード、ニット地、ちりめん布を各1枚ずつ用い、芯地は、不織布、基布がニット、織物構造を含む7種類として、家庭用アイロンで表布に接着した。布の力学的性質は、KES-FBシステムを用いて、引っ張り、曲げ、せん断、圧縮の性質を測定した。首の形状を石膏で型どったモデルにできあがった衿をつけ、正面、側面、上部からシルエットの観察をおこなった。

【結果】 芯地を接着した複合布の伸張、曲げ、せん断特性と、できあがりのシルエット（布のはりによって衿外周りが体表面から浮く、衿折れ線が角ばって首にそわないなど）との関係を明らかにした。また布のよこ糸方向の伸張特性をパラメーターとして、パターン上の改良が必要な布を分類し、これらについては衿折れ線で切り替えた2枚衿にすることで、衿折れ線がなめらかに首にそわせることができた。